

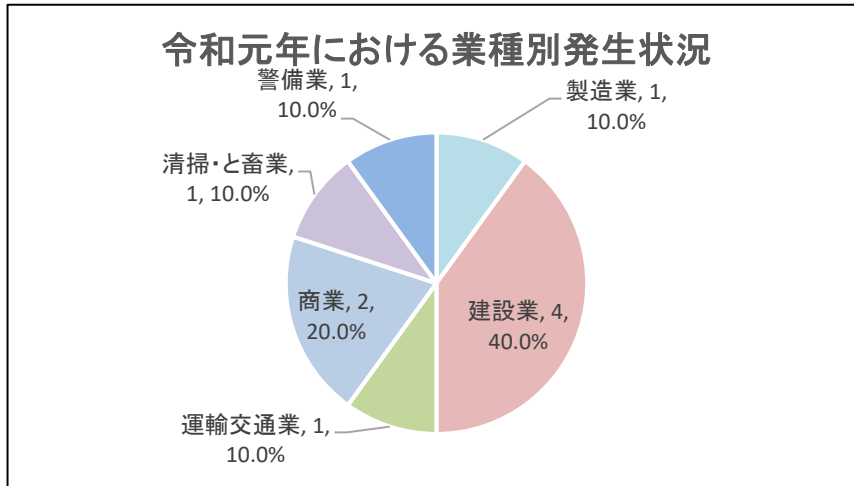
# 【宮城の職場における熱中症による死傷災害の発生状況】

宮城労働局

## 1 令和元年（平成31年）における発生状況

図1-①

令和元年（平成31年）における熱中症の被災者（休業4日以上。以下同じ。）は10人であり、近年の中では猛暑であった平成30年に比較すると△9人ですが、熱中症予防対策が相当程度浸透してきた中であっては高止まり傾向にあります。



単位：人(以下同じ)

図1-②

7月に4人、8月に5人と、この2か月間に90.0%が集中しており、7月及び8月の熱中症予防対策が極めて重要です。

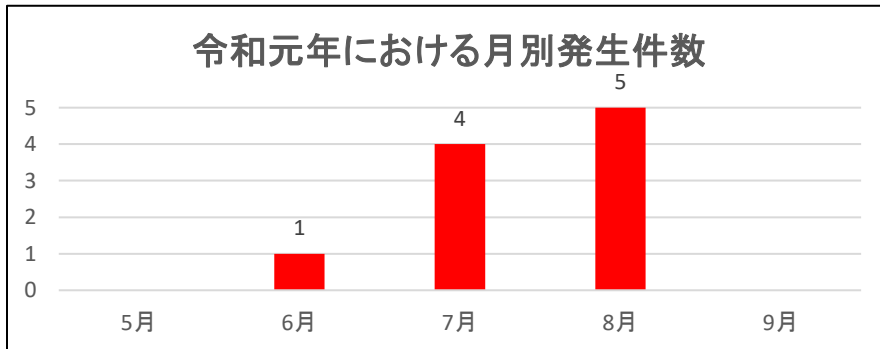


図1-③

発生時刻は、一部を除き、11時台から15時台に集中しており、始業から就業までの間の熱中症予防対策が重要であることがわかります。

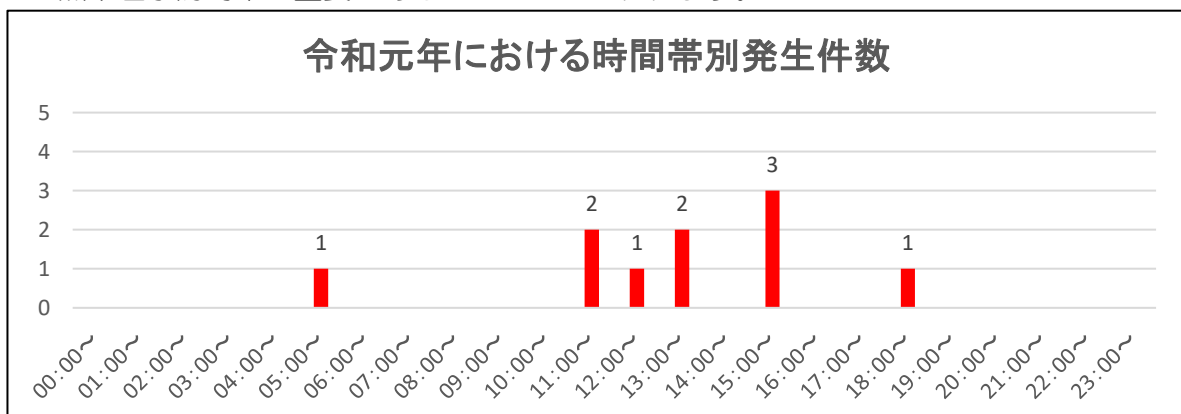


図1-④

体力や暑熱に対する感覚が低下傾向にある高年齢労働者が多く被災しています。

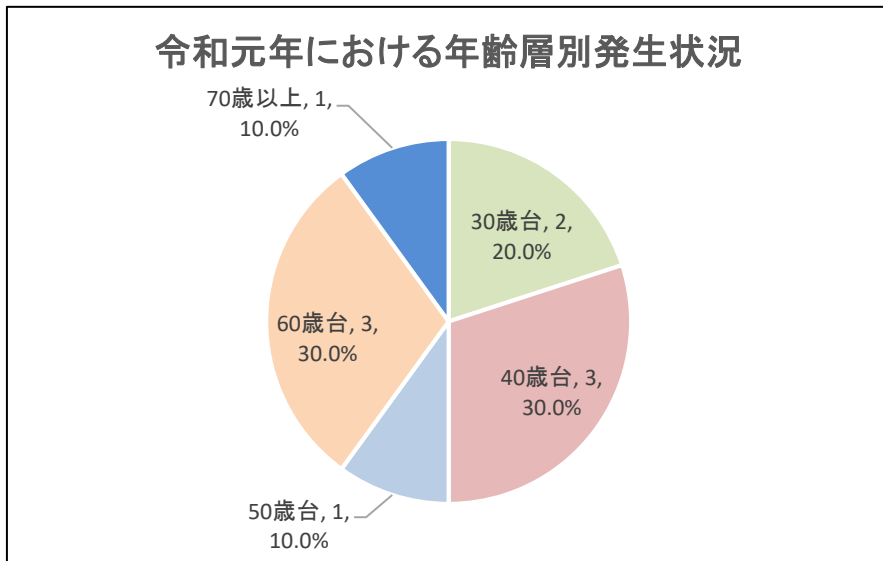
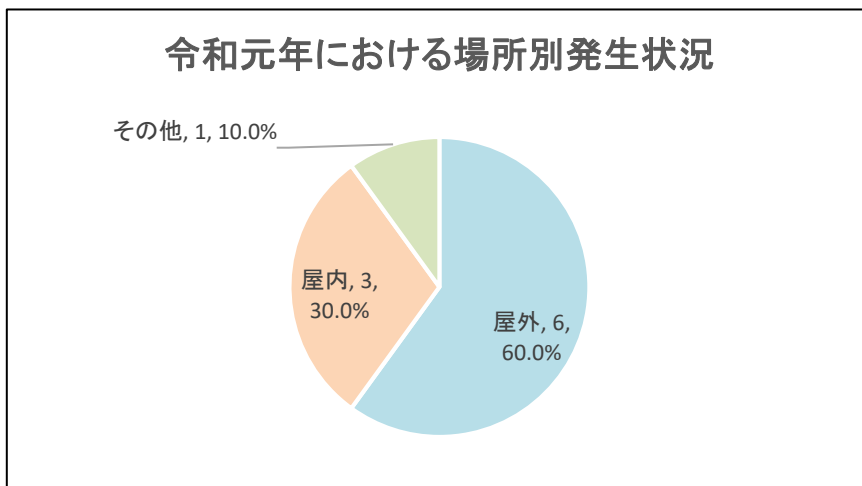


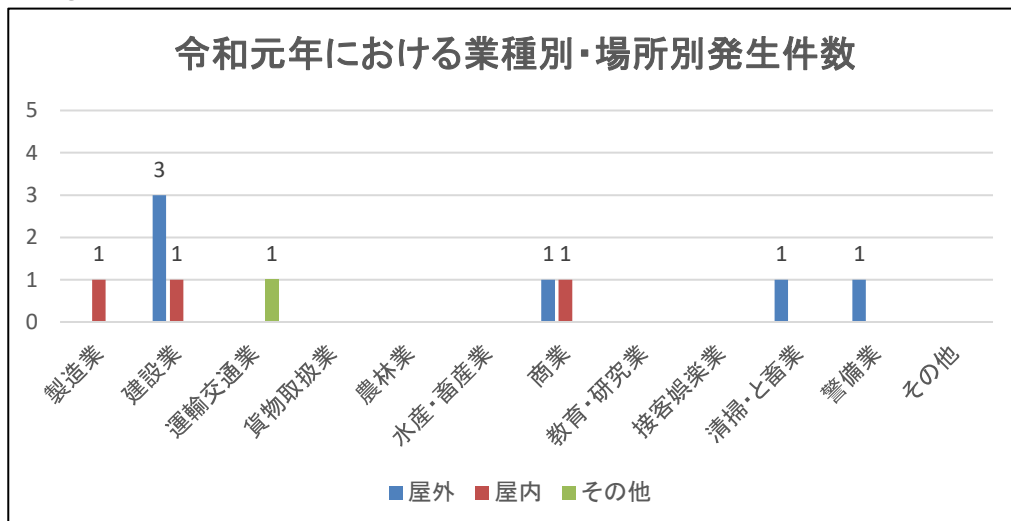
図1-⑤

屋外での被災が60.0%を占めているますが、屋内での被災も少なからずあり、屋内作業においても、的確な熱中症予防対策が求められます。



(注) その他は、車内での被災

図1-⑥



## 2 平成22年～令和元年における発生状況

図2-①

平成22年からの10年間で110人が被災しており、そのうち5人が亡くなっています。平均して毎年10人程度が被災しており、本年においても、的確な熱中症予防対策が必要です。

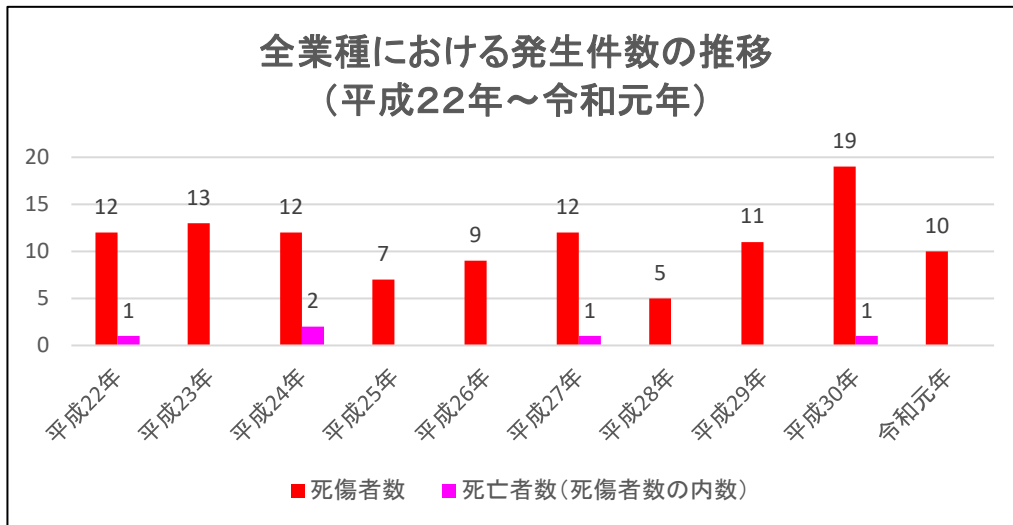


図2-②

発生件数が多いのは、建設業(32.7%)、製造業(17.3%)、運輸交通業(13.6%)、商業(11.8%)の順であり、屋外型業種が69.0%を占めますが、商業、警備業など広範な業種で発生しています。

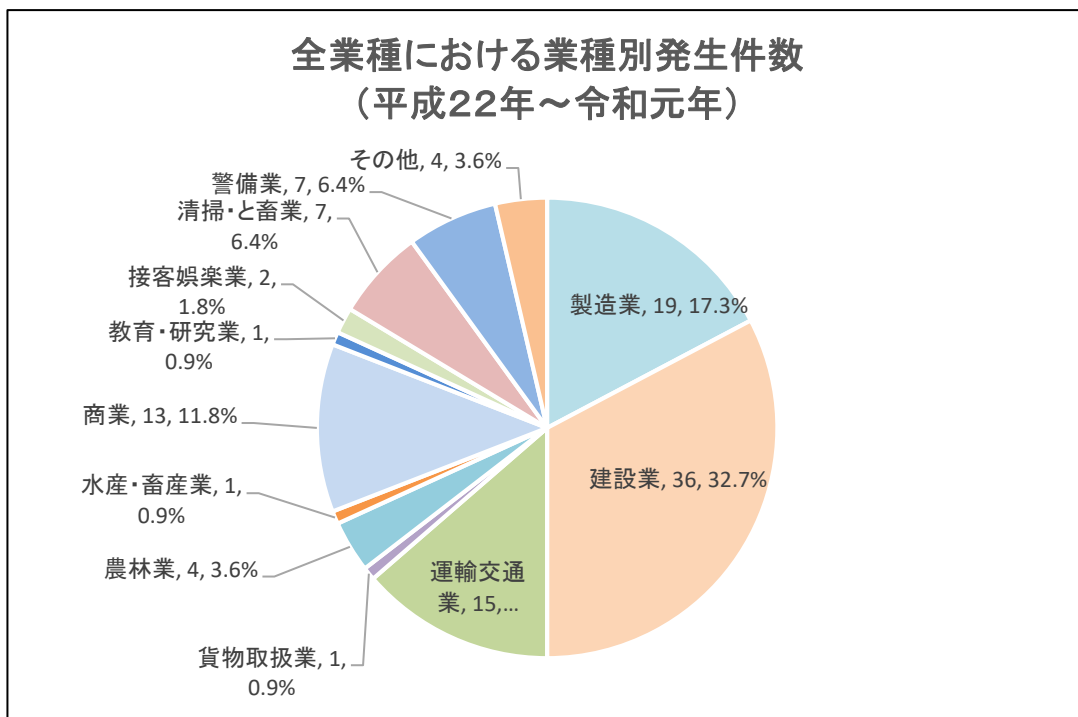


図2-③

7月に44人、8月に54人と、この2か月間に89.1%が集中しており、7月及び8月の熱中症予防対策が極めて重要です。また、残暑となる9月も油断できないところです。

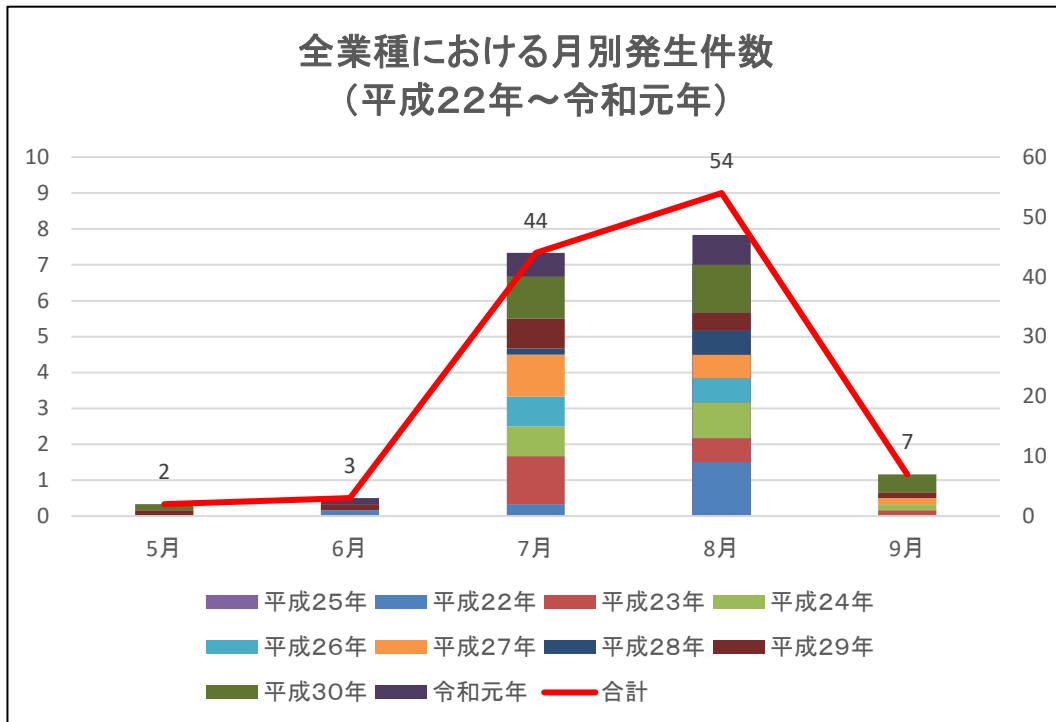


図2-④

発生時刻は、15時台をピークにその前後の時間帯で多く発生しています。早朝や夕方以降の発生があるほか、深夜の時間帯にも発生していることから、始業開始直後や終業後の体調管理にも注意が必要です。

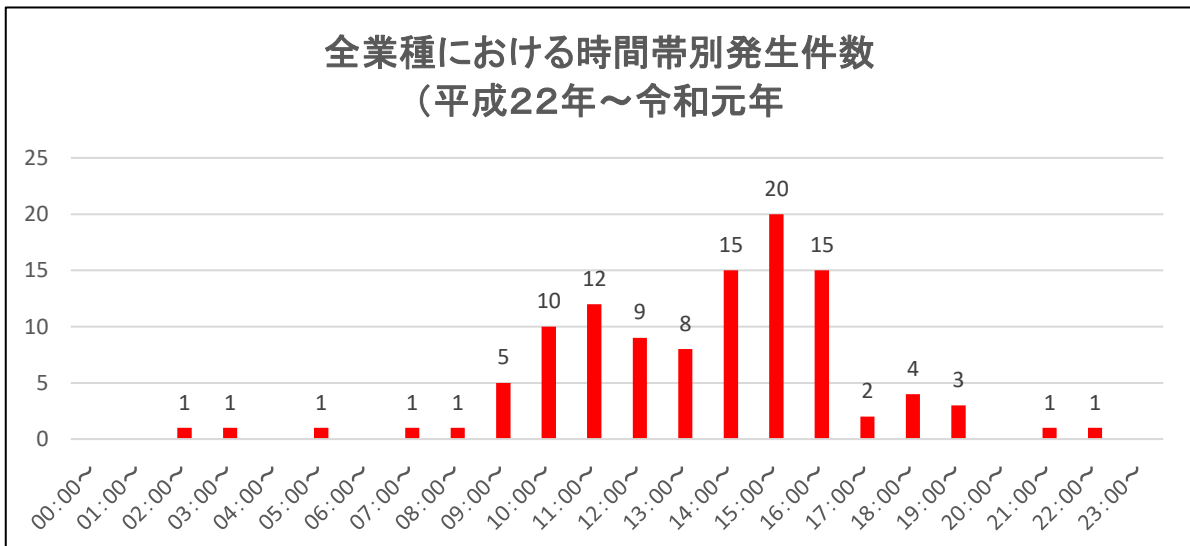


図2-⑤

19歳以下から70歳以上まで被災しており、暑熱に対する順化、作業環境等が大きく影響しているものと考えられます。

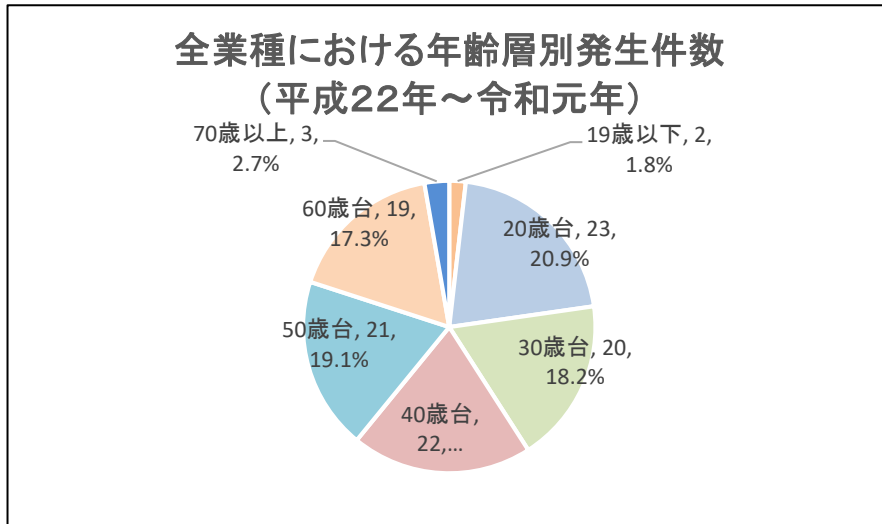
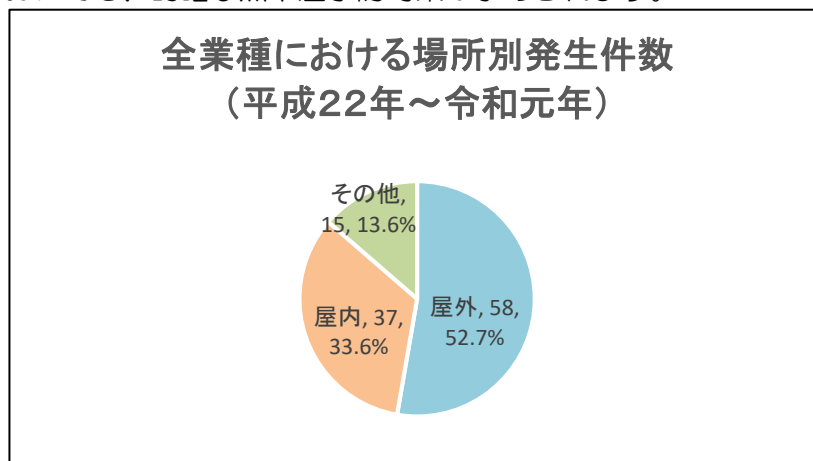


図2-⑥

屋外での被災が52.7%を占めていますが、屋内での被災も少なからずあり、屋内作業においても、的確な熱中症予防対策が求められます。



(注) その他は、屋内  
外両方、車内、船内、  
作業場所以外などでの  
被災

図2-⑦

製造業、商業、清掃・と畜業においては、屋内での発生が屋外よりも多くなっているっており、屋内の作業ということで安心は禁物です。また、運輸交通業においては、車内といった「その他」の場所で多く発生しています。

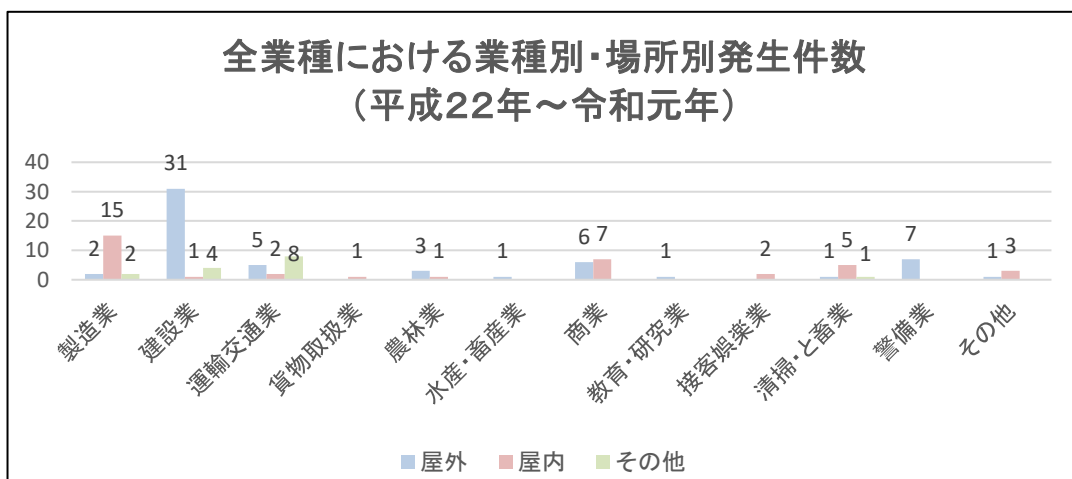
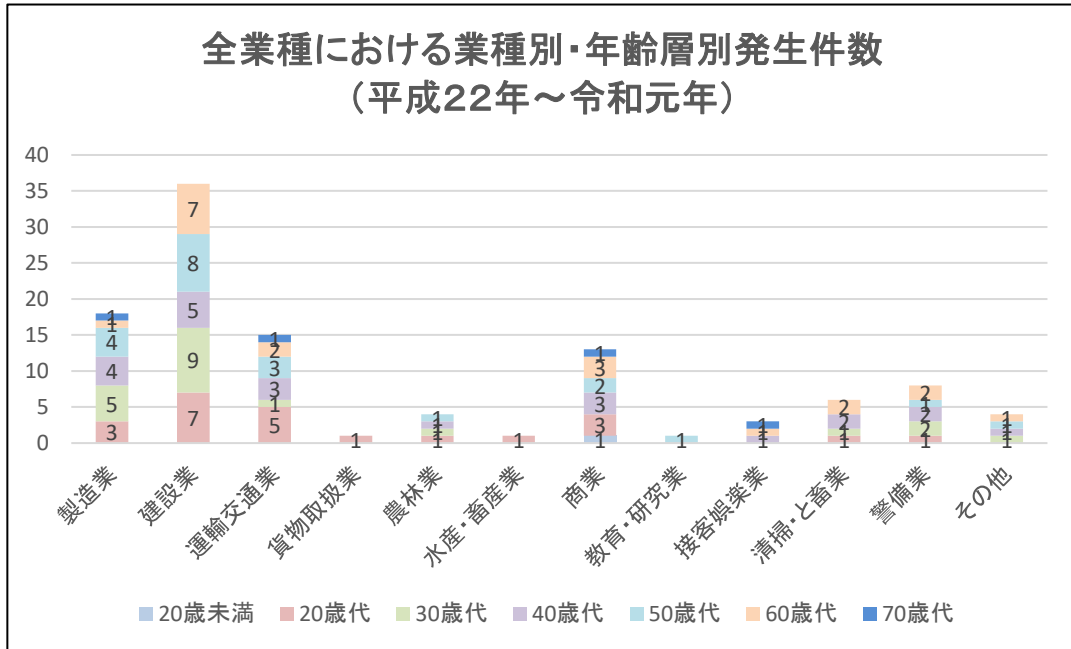


図2-8

業種別・年齢層別の発生状況から、業種に関係なく様々な年齢層において発生していることが分かり、すべての業種のすべての年齢層において、熱中症予防対策が必要であることを表しています。



### 3 平成22年～令和元年の建設業における発生状況

図3-①

平成22年からの10年間で36人が被災しており、各業種の中で最も多く発生しています。警備業とともに屋外での作業が多いことから、休憩などの労働時間や体調管理が非常に重要となります。

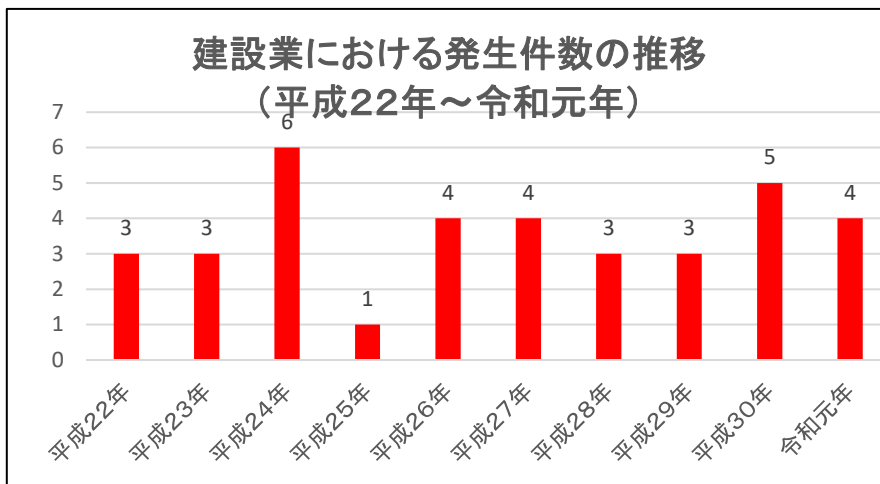


図3-②

建築工事業が63.9%、土木建築業が27.8%と建築工事業において多く発生しています。建築中の建物等においては通風が不十分な場合も多く、十分な注意が必要です。

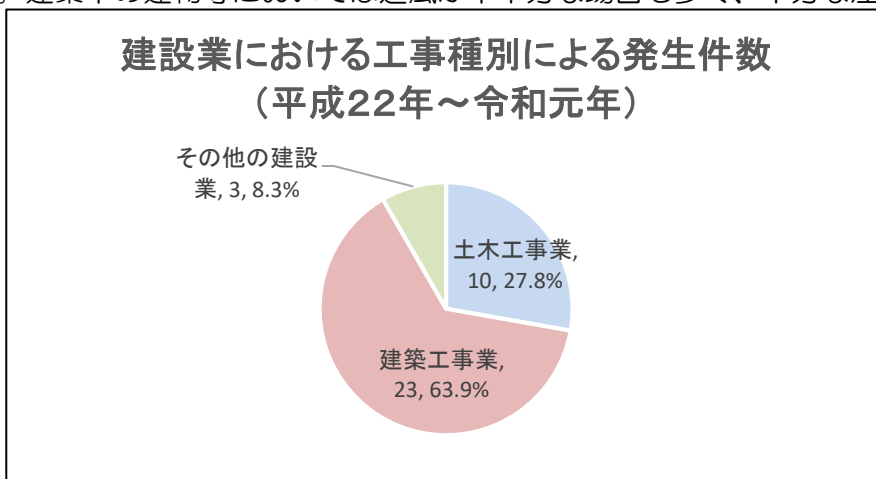


図3-③

7月に14、8月に19人と、この2か月間に91.71%が集中しており、7月及び8月の熱中症予防対策が極めて重要です。盆休みが明けた直後など暑熱への順化が回復していない時期の作業時にも注意が必要です。

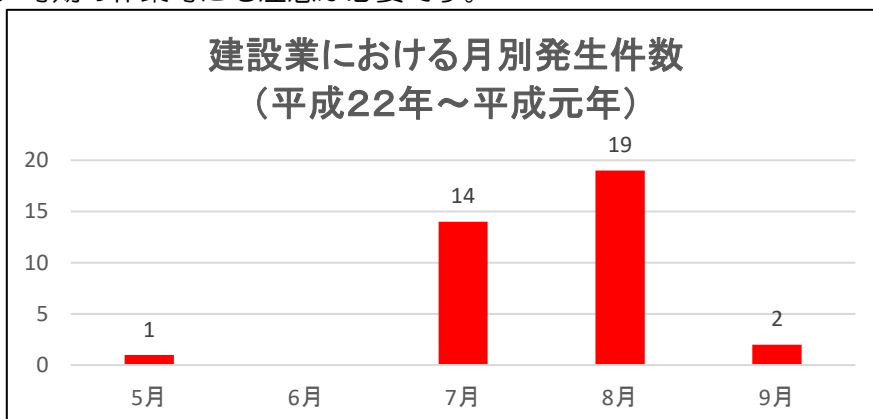


図3-④

発生時刻は、12時台と15時台の2つのピークが認められます。屋外での作業が多く、身体に熱を蓄積していることが影響している可能性があります。こまめに涼しい場所で休憩する、作業時間を短縮するなど、当日の状況に合わせたきめ細かな対策が求められます。

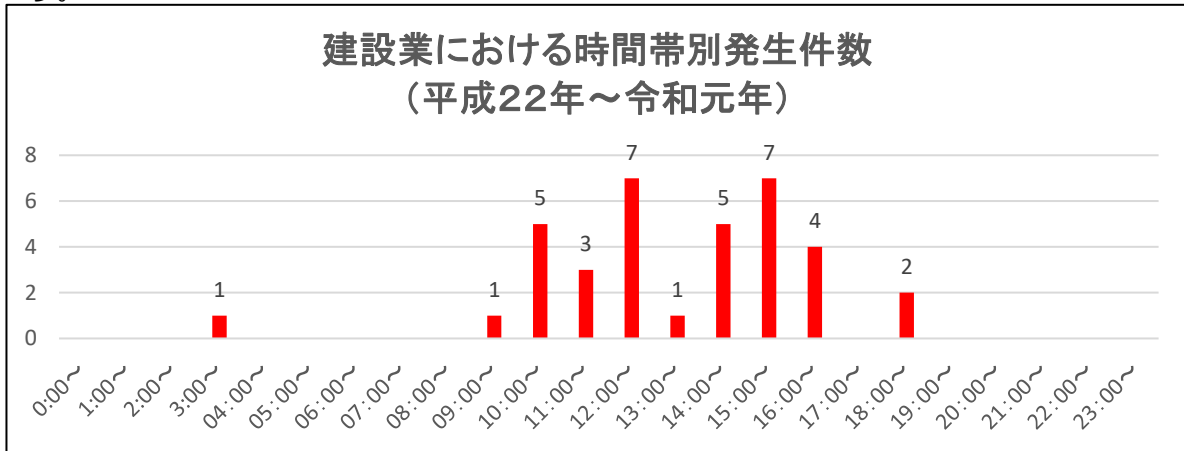
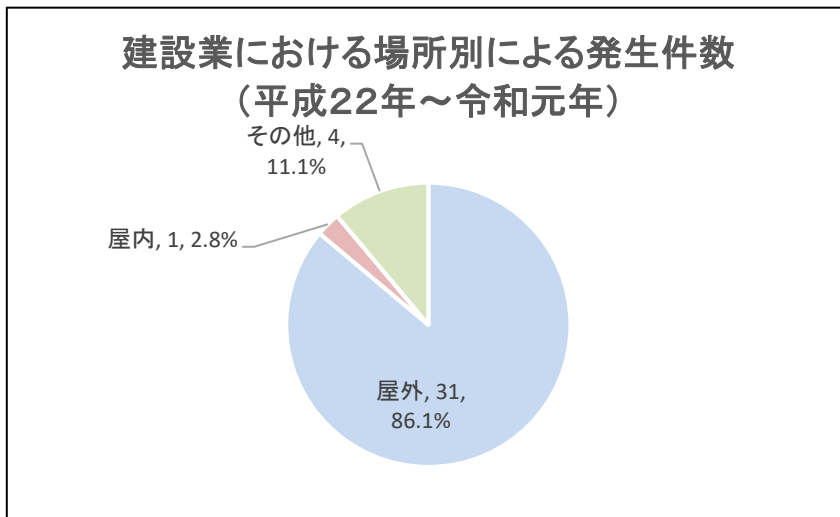


図3-⑤

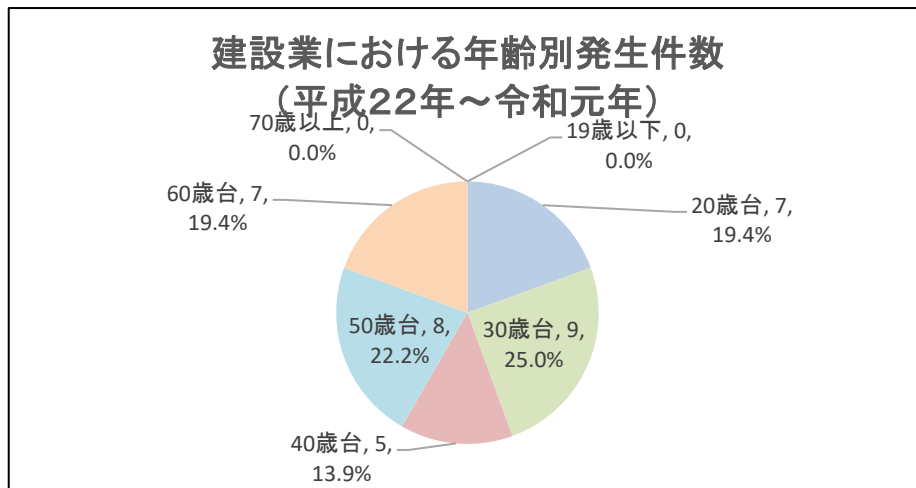
屋外での被災が86.1%と圧倒的に多くを占めていますが、屋内での被災も少なからずあり、屋内作業においても、的確な熱中症予防対策が求められます。



(注) その他は、船内や作業場所以外などでの被災

図3-⑥

発生件数が多いのは、30歳台(25.0%)、50歳台(22.2%)、20歳台と60歳台(ともに19.4%)の順であり、若いからと過信することは禁物です。





#### 4 平成22年～令和元年における死亡災害の概要

| 発生年月    | 業種      | 概要                                                                 |
|---------|---------|--------------------------------------------------------------------|
| 平成22年7月 | 警備業     | 被災者は、工事現場において、誘導業務に従事していたが、倒れているところを発見され、その後死亡した。                  |
| 平成24年7月 | 建築工事業   | 被災者は、作業中に暑さを訴え、水分補給のため歩いていたところ倒れ、病院に搬送されたが、その後死亡した。                |
| 平成24年7月 | 土木工事業   | 被災者は、工事現場において、午前の休憩後に具合が悪くなったため休憩した後、帰宅途中で意識を失い、病院に搬送されたが、その後死亡した。 |
| 平成27年7月 | その他の事業  | 山中に設置された機器の点検作業からの下山中に転倒し、病院に搬送されたが、その後死亡した。被災者は途中で体調を崩していた。       |
| 平成30年9月 | 陸上貨物取扱業 | 倉庫内にて商品仕分け作業において、休憩時に体調不良の申し出の後、急激に体調が悪化し、病院に搬送されたが、その後死亡した。       |